

H24.9.22

駆け込み受診考



長尾和宏（ながお・かずひろ） 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで“人を診る”総合診療を目指す。医学博士。労働衛生コンサルタント。関西国際大学客員教授。54歳。ブログ（<http://www.nagaoclinic.or.jp/doctordblog/nagao/>）が好評。

病院の外来は予約制が一般的ですが、町医者でも最近は予約制の医院が増えています。私の医院も患者さんの要望に応える形で、一部予約制を採用しています。しかし、私も含めて多くの町医者は、診察時間内に門をくぐりさえすれば必ず診察を受けることができます。

朝一番、扉が開く前から患者さんが並んでいる医院を見かけます。スーパーの開店と同様、扉が開くと同時に駆け込んでいきます。多くはリハビリや注射をわれ先に受けたのでしょうか。朝一番に医師の顔を見たら安心するといふ人もおられるようです。

私が不調の人、誤解されて

いる人の3群です。

「血痰が出ます」「いつからですか？」「1年前からですか」「……」「血便が出ます」「……」。これらは私の医院の場合、午後3年前から」「10年前からひどく腰が痛い」「朝からぜんそく発作が出たが、夜まで我慢していた」といったのを受け付け終了間際に飛び込んで来る場合は、急病の人と、

「そんなに前から症状がある

「とにかく来られました。

何をするにも、最後は時間

の闘いになり損です。穴場

受診が、待ち時間が一番短

い」と完全に誤解している

う人もおられます。

う人もおられます。